

自分の中に何かが生まれる「一瞬」

※オンラインでスライドを用いてお話しています。

後期後半開始から約1ヶ月が経ちました。3年生は私立受験等がおよそ一段落し、現在は県公立高校の出願の最中です。進路決定は3年間の集大成。1, 2年生は各学年のまとめの時期。第79期生徒会スローガン「絆」の横断幕が、生徒玄関の上に掲げられています。学級・学年でつくってきた絆をさらに深める時期でもあります。(中略)

現在、皆さんが観ているスライド、あるドラマの一場面です。わかりますか?このドラマは「ドラゴン桜2」(2021年)です。ではこれは?「VIVANT」(2023年)ですね。特に「VIVANT」は、この先のストーリーがどう展開するのかを勝手に考えながら観るのがとても楽しかったです。この2つのドラマに共通するのは…、テレビ局や出演者(キャスト)なども考えられますが、1つの共通項が「プロデューサー」なのです。お名前は、飯田和孝さんです。「市報くまがや」1月号で市長さんと飯田さんの対談が行われ、飯田さんは、プロデューサーのお仕事について、企画の立ち上げから、予算管理とキャスト選定、脚本家との脚本制作、スタッフや撮影の管理など「ドラマの最初から最後まで責任を持つ仕事」なのだと表現されていました。飯田さんは、「VIVANT」で、優れた映画・ドラマのプロデューサーに贈られるエランドール賞を受賞するなど、TBSを代表するプロデューサーです。実は、飯田さんは本校の卒業生なのです。皆さんの先輩です。平成8年度卒業生で音楽家の原田勇雅さんと同級生です。プロデューサーとしての活躍の様子を画像でも見て下さい。

飯田さんが本校の卒業生であると知ったきっかけは、先ほど紹介した「市報くまがや」です。早速、連絡をとらせていただき、メールを通してお話を伺うことができました。例えば「中学校時代の1番の思い出」です。野球部に所属していた飯田さんが3年生で迎えた学総・準決勝。最終回2アウト、1-2の絶体絶命の状況で打席に入った飯田さん、そこで見事、センター前ヒットを打ちました。富士見中はそのヒットをきっかけに同点、そして逆転。この勢いで決勝も勝ち上がり県大会出場もかなえました。飯田さんは、このことで、最後まであきらめないという教訓だけでなく、自分自身が変わる「一瞬」、自分の中に何かが生まれる「一瞬」に出会うことができたとお話になりました。中学に入ってから左打ちに変え、そこから2年間頑張った結果が、その試合で初めて実を結んだのです。飯田さんは、大谷翔平選手の「地道な努力も必要だけど、変わる時は一瞬で変わる」という言葉も紹介して下さいました。当時の野球部監督は、中学生であった飯田さんを「コツコツ真面目に積み上げていた。野球が大好きで、楽しそうにプレーしていた」と評しています。進路決定を間近に控えている3年生は、これまでの積み重ねの成果が発揮される場面を迎えます。進路選択・決定を通して、自分自身が変わる「一瞬」、自分の中に何かが生まれる「一瞬」に出会うことができるといいですね。また、飯田さんからは、富士見中生にメッセージもいただいています。(担任が教室でメッセージを配付→読む)。併せて、大人に対するメッセージもいただきました。このメッセージには、現在放映中のドラマ「御上先生」のテーマにつながる内容が込められているのだそうです。「御上先生」も飯田さんがプロデューサーをお務めのドラマです。今、3話が終わったところ。学校が舞台です。御上先生の言葉をきっかけに、生徒が自分で考え、何を生み出すのか、何かが生まれる「一瞬」に出会うことができるのか…楽しみにしています。

熊谷市立富士見中学校長 田沼 良宣

富士見中生へのメッセージ

自分なりに、で良いので、毎日を楽しんでほしいと思います。その中に、もしかしたら未来の自分の仕事だったり、好きなことだったり、が見つかるかもしれません。今、将来の目標とか、そういうものがないからといって決して焦る必要はありません。楽しむこと、その積み重ねが、自分の中に何かが生まれる「一瞬」に出会わせてくれるはずです！後輩のみなさん、頑張ってください、とは言いません。楽しんでください！

そして、富士見中に勤務する大人の皆さん、後輩たちが「楽しむこと」を否定せず、チャレンジを見守り、悩んだ時には一緒に「考えて」あげてください。彼らが、この社会を変える希望になるはずです！宜しくお願い申し上げます。

熊谷市立富士見中学校
卒業生 飯田 和孝